

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	学習・言語心理学	授業コード	1065
英文科目名称			
担当教員	布井雅人		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	月曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	： DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ： DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ： DP③ コミュニケーション能力 ○ ： DP④ 専門的知識・技能の習得 ： DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ： DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	2017年度以前入学生カリキュラムは「学習心理学」 この授業では、経験を通じての知識や技能の獲得、あるいは認識や行動の変化の過程や特徴について、日常的な具体例を挙げながら分かりやすく概説する。 この科目は、公認心理師受験資格取得のための必修科目である。
-------	--

授業のねらい	学習やそれを支える記憶・言語に関する心理学の専門知識を習得するとともに、それらの研究方法の理解を通じて、問題発見とその解決方法の見つけ方を理解する。
--------	--

授業の到達目標	学習・言語に関する心理学の基本的知見と、それらの実証方法について理解することができる。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	学習心理学とは	学習心理学における学習とは
	2	古典的条件付け (1)	条件反射の形成、恐怖条件付け
	3	古典的条件付け (2)	般化、弁別、消去
	4	オペラント条件付け (1)	強化、罰
	5	オペラント条件付け (2)	試行錯誤学習、洞察学習、学習性無力感、強化スケジュール
	6	生物学的制約	生物学的制約、初期経験
	7	確認テスト (1)	条件付けについての確認テスト
	8	技能学習	技能学習における練習、転移
	9	社会的学習	模倣学習、観察学習
	10	動機づけ	動機づけの理論と種類
	11	確認テスト (2)	技能学習・社会的学習・動機づけについての確認テスト
	12	記憶 (1)	記憶の種類、記名方略
	13	記憶 (2)	忘却、記憶の変化
	14	言語 (1)	言語の獲得と発達
	15	言語 (2)	文章の理解

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	授業中の確認テスト：30%（複数回にわたる講義内容の理解） 定期試験：70%（全ての講義を通じての学習心理学の理解度を確かめるための筆記試験）
------------	--

教科書・テキスト	指定しない
----------	-------

参考書	山内光哉・春木豊（編） 2001 グラフィック学習心理学 -行動と認知- サイエンス社 ISBN 978-4781909776
-----	---

授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	前回までの授業内容を理解していることが必要なため、各回の復習をしっかりと行い、不明な点は次回授業時に質問すること。また、途中数回の確認テストを行うため、そのための準備を行うこと。各回の復習と確認テスト・定期試験の準備のために合わせて60時間の授業外学習を行うこと。
-----------------------------	--

オフィスアワー	一覧表参照。ただし、研究室在室時は随時対応可。
---------	-------------------------

担当教員からのメッセージ	何かを獲得・習得する過程についての幅広い知識を身につけてもらえる授業になると思います。
--------------	---

担当教員の連絡先	nunoi-m@seisen.ac.jp
----------	----------------------

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理学概論A	授業コード	1169
英文科目名称			
担当教員	新美秀和		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 5時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ◎ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	心理学とはどのような学問であるかをレクチャーする。前期のこの科目では特に発達心理学と臨床心理学がカバーする領域について概観する。なお後期の心理学概論Bでは認知心理学と社会心理学について概観していく。
-------	---

授業のねらい	本学の教育理念には「人間理解」がうたわれている。その基盤となる心理学がどんな学問領域であるかについて凡そ理解できるようになることが本授業のねらいである。
--------	--

授業の到達目標	・心理学がどのような学問であるかを理解できるようになる。 ・こころという目に見えないものについての研究の仕方や整理の仕方を学ぶ。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション：心理学とはどんな学問か	心理学の歴史と研究手法について学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	2	こころも徐々に発達する	こころの発達という考え方を学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	3	赤ちゃんとお母さんのこころ	胎生期から周産期における母子の心理について学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	4	甘え上手と甘え下手	愛着という重要概念について学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	5	認知の発達と言語の使用	発達に伴い、何が分かるようになり何ができるようになっていくかを学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	6	コミュニケーションや社会性の発達	発達に伴い、どうやって社会性が獲得されていくかを学ぶ ※授業内容の復習(3時間)
	7	こころ成長とこころの危機	こころの発達と危機は表裏一体であることを学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	8	老いのなかのこころ	中年期から老年期にかけての心理について学ぶ。 ※授業内容の総復習(12時間)
	9	臨床心理学の歴史と実践家	こころのケアの歴史を学び、実践家の活動領域について学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	10	こころの構造と身体との関係	こころの構造についての様々な仮説を学ぶとともに、身体と心との関係を学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	11	悩みやこころの病について	神経症や精神病を中心にこころの病について学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	12	こころの調べ方	こころの状態を知るための方法について学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	13	表現とその意義	芸術的表現の持つ意義について学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	14	こころは変わるのか？	こころがなぜ変わりにくいのか(安定しているのか)を学ぶ。 ※授業内容の復習(3時間)
	15	自分らしくなっていく	人間性心理学のさまざまなアプローチについて学ぶ。 ※授業内容の復習(12時間)

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験、100%、期末試験の得点
------------	-------------------

教科書・テキスト	梅花女子大学心理学科著『こころを観る・識る・支えるための28章ー心理学ははじめの一步ー』ナカニシヤ書店
----------	---

参考書	授業中に適宜指示する。
-----	-------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	毎回予習を求める。 テキストの指定範囲を十分に読み込み、理解したうえで授業に臨むこと。
-----------------------------	--

オフィスアワー	前期(月)3限、後期(月)4限
---------	-----------------

担当教員からのメッセージ	心理学がどんな学問か、その概要を1年間かけて学びます。2年生以降で学ぶ専門的な心理学の基礎になる科目ですので、しっかり学んでいきましょう。
--------------	---

担当教員の連絡先	niimi-h@seisen@ac.jp
----------	----------------------

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	リラクセーション心理学	授業コード	1161
英文科目名称			
担当教員	炭谷将史		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	月曜日 2時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	私たちが健康な生活を維持するためには、神経系の働きをある程度コントロールしなくてはならない。神経系が乱れやすい生活スタイルで暮らしている私たち現代人は常に過剰なストレスに晒されており、リラクセスを求めている。本授業では、リラクセーションを知識と実践の両面を概説する。リラクセーションという概念を複数の視点から検討し、現代社会における意義を理解してもらいたい。次いで、我が国に古くから伝わるリラクセーションについてその理念と方法を体験してもらう。
-------	--

授業のねらい	本授業は、受講生がリラクセーションという概念に対する科学的理解を深め、日常生活の中でリラクセスして生活できる能力を高めることを主たるねらいとする。ストレスを解消するという意味でのリラクセスだけではなく、生活をより充実させるリラクセスについて、自学を通じて理解することが求められる。また、地域のリラクセーション産業施設の現状を調べ、情報を共有しながら現代人が求めているリラクセスの姿を浮き彫りにする。
--------	---

授業の到達目標	1. リラクセーションの概念を理解しており、他者に説明できる。 2. リラックス状態を体得し、日常生活の中で具体的に活かしながら生活できる。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	授業のルールと約束事を確認し、全体像を提示する。 ※シラバスを事前に読んでくこと
	2	リラクセーション事始①	リラクセスを理解する前提として知っておきたい生理的基礎とその測定方法等について学習する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	3	リラクセーション事始②	リラクセス・癒しの具体的例を挙げ、その現代的意義を検討する。
	4	リラクセーション事始③	今世紀になりリラクセーション産業の活動が活発化し、いまでは多くの癒しスポットが存在している。受講者は自分でそのうちの1つを体験し、その経験をレポートする。 ※実際にリラクセーション産業を体験してくる (2時間)
	5	リラクセーション事始④	スポーツ場面におけるリラクセーションについて覚醒水準などとの関係から、いくつかの理論を学習する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	6	各国の癒し①～日本	我が国における癒しについて釈尊の呼吸法や白隠禅師の方法を学ぶ。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	7	各国の癒し②～日本	前時に引き続き、我が国における癒しについて、貝原益軒の『養生訓』の概要等を学ぶ。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	8	各国の癒し③～インド	古代インドの医学(アーユルベダ)における癒しの概念について概説する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	9	各国の癒し④～インド	前時に引き続き、インドの癒しの技法としてヨーガを実践的に学習する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	10	各国の癒し⑤～中国	気概念と気の体操(気功)について学ぶ。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	11	各国の癒し⑥～中国	気概念を取り入れた太極拳を実践的に学ぶ。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	12	スポーツにおけるリラクセス①	スポーツ場面で用いられるリラクセーション技法として、呼吸法の考え方と具体的方法を学習する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくこと (2時間)
	13	スポーツにおけるリラクセス②	スポーツ場面で用いられるリラクセーション技法として、自律訓練法の考え方と具体的方法を学習する。 ※前回の復習 (1時間)

	14	スポーツにおけるリラックス③	スポーツ場面で用いられるリラクセーション技法として、漸進的脱感作の考え方と具体的方法を学習する。 ※前回の復習（1時間）
	15	まとめ	これまでの学習を総括的に振り返り、リラクセーションの現代的意義を改めて検討する。 ※前回の復習（1時間）
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験、70%、到達目標の達成度を確かめるための筆記試験 ・平常点、30%、受講の様子（議論への参加等）やミニレポートの内容を踏まえて評価する		
教科書・テキスト	使用しない		
参考書	気の伝統 人文書院		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	授業終了時には、リラックスの概念を具体例を用いながら説明できることが求められる。		
オフィスアワー	一覧表を参照。原則として研究室在室時は随時対応可。		
担当教員からのメッセージ	人間関係の希薄化，自動化された動かない生活といった現代の生活スタイルは，ストレスに満ちています．その中で生きる私たち．リラックスする能力は必須の能力だと思います．		
担当教員の連絡先	sumiya-m@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理学的支援法	授業コード	1060
英文科目名称			
担当教員	高橋啓子		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	月曜日 4 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 ■該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	△ ： DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ： DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ： DP③ コミュニケーション能力の習得 ○ ： DP④ 専門的知識・技能の習得 ： DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ： DP⑥ 問題発見・解決力
------------	--

授業の概要	2017年度以前入学生カリキュラムは「カウンセリング」 カウンセリングは他者援助の手法であると同時に自己成長の原動力でもある。現在までの自己認識を紐解き、新たな自己達成の基盤を築くとともに、他者の心理に思いを馳せることから、おのずと生まれるコミュニケーション力を身につける。即ち、傾聴・理解・共感・アセスメント等をとおして関係性を構築する力を養う。また、そのスキルを活かして社会において有効な対人支援の可能性を検証する。
-------	---

授業のねらい	自分の認知や価値観を知ることから、人間心理についての共通の機制を学習をする。感情の機微や表現・行動化についての洞察を行い本当の思いに共感できること。聴き場面やSOSに対して適切な方向を出すための寄り添いが出来ること。
--------	--

授業の到達目標	1 カウンセリングの技法の習得 2 自己や他者への共感・受容の力をつける 3 社会におけるカウンセリングの実際とニーズについて学習する 4 適切なアセスメントと応答構成ができる
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	「わたし」の概念	わたしの「見る」「聞く」「話す」について、体験的に気づく。 *予習・復習4時間
	2	「自己」と「他者」 ①	わたしの感受性(認知)と行動は、他者のものとうどう異なるのか、当たり前と思っていたことがそうではないことに気づき、他者を理解するべく「傾聴」の姿勢を学ぶ。*予習・復習4時間
	3	「自己」と「他者」 ②	価値観の違いを受け入れ、アサーティブに自己の意見をフィードバックするためのグループワーク。*予習・復習4時間
	4	カウンセリングの実際	社会においてカウンセリングはどう活用されているのかを学ぶ。 *予習・復習4時間
	5	カウンセリングの技術 ①	発想力や創造力を豊かにする。認知・感情・行動への洞察力を見につける。*予習・復習4時間
	6	カウンセリングの技術 ②	非言語コミュニケーションについて学ぶ。言葉と行動・言葉と本心との関係についても話し合う。*予習・復習4時間
	7	カウンセリングの技術 ③	傾聴はなぜ必要なのか、「主訴」はどこにあるのかを相談事例から学ぶ。*予習・復習4時間
	8	カウンセリングの技術 ④	アセスメントについて、相談の内容との関係から学ぶ。 *予習・復習4時間
	9	来談者中心技法について	カウンセリングの歴史と学説について学習する。 *予習・復習4時間
	10	「関係性」とは何か	実際のカウンセリング場面をロールプレイ。応答構成についての問題点を発見する。また、面接と電話、メールなどによる相談の課題についても理解する。*予習・復習4時間
	11	「質問」と「助言」	技術的なベースをいかしたカウンセリングの相互体験をする。 *予習・復習4時間
	12	学校現場におけるカウンセリング	生徒支援を中心としたカウンセリングのあり方を学ぶとともに、担任、教育相談など学内の連携と協力の視点からの問題点を学ぶ。 *予習・復習4時間
	13	メンタルヘルス	うつや自殺防止の観点から、基本的な知識と企業の取り組みを学ぶ。 *予習・復習4時間
	14	社会の中のカウンセリング	子ども虐待や高齢者虐待、DVや犯罪被害など、カウンセリングが必要とされる社会でどのような取り組みがされているかを理解する。 *予習・復習4時間
	15	危機場面におけるカウンセリング	災害や事件などの危機場面におけるカウンセリングについて学習する。 *予習・復習4時間

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験、30%、レポート ・平常点、70%、・ロールプレイ実技点やグループワークの評価を含む
------------	--

教科書・テキスト	プリント対応・資料提供
----------	-------------

参考書	独習 実践カウンセリングワークブック 日本・精神技術研究所
-----	-------------------------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	教科書後半にあげられているカウンセリングのエピソードについては自宅で予習。授業との関連について考えておくこと。
オフィスアワー	前期・後期(木)1時限(メールで確認してください)
担当教員からのメッセージ	授業中、意見を求めることや、ロールプレイなどの実技があるが、「正解」を求めているわけではないので、自由な発表を心がけてください。本講義は、担当教員の臨床心理士としての実務経験を生かした授業を展開する。
担当教員の連絡先	takaha-k@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理学統計法	授業コード	1049
英文科目名称			
担当教員	布井雅人		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	月曜日 3時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 ◎ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	2017年度以前入学生カリキュラムは「心理統計法」心理統計法は、心理学の様々な考え方を理解するために不可欠であり、卒業研究をはじめ、各種実習・演習でデータ解析を行うために絶対に必要な科目です。本講義では、心理学において統計を「使える」ようになるために必要な心構えや基礎知識などについて概説します。この科目は、公認心理師受験資格取得のための必修科目である。
-------	---

授業のねらい	心理学で得られるデータの特徴について理解するとともに、それらを統計的に処理するための基礎知識を身につけることを目指す。
--------	---

授業の到達目標	①心理学における統計の必要性を理解できる。 ②基本的な統計結果の内容を理解することができる。 ③目的に合わせて適切な心理統計の手法を選択できる。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	心理学研究におけるデータ (1)	尺度の種類とその取扱い
	2	心理学研究におけるデータ (2)	データの信頼性と妥当性
	3	記述統計法 (1)	度数分布・代表値
	4	記述統計法 (2)	データのばらつきとは・分散・標準偏差
	5	記述統計法 (3)	正規分布・標準化・標準得点
	6	記述統計法 (4)	2変数間の関係・相関係数
	7	中間まとめ課題	記述統計法の理解度の確認
	8	推測統計	推測統計とは・標本抽出
	9	統計的仮説検定	統計的仮説検定の考え方、有意水準
	10	平均の差の検定 (1)	t検定・1要因分散分析・自由度
	11	平均の差の検定 (2)	要因計画・2要因分散分析
	12	度数の検定	カイ二乗検定
	13	予測を行う分析	回帰分析・重回帰分析
	14	潜在変数を発見する分析	因子分析
	15	適切な分析方法の選択	分析方法の選択

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	復習・まとめ課題：40%（復習課題の提出：15%，中間まとめ課題：25%） 定期試験：60%（授業内容に関する総合的な理解を確かめるための筆記試験）
------------	---

教科書・テキスト	河合塾KALS（監修）（2018）．公認心理師・臨床心理士指定大学院対策 鉄則10&キーワード25 心理統計編 講談社 ISBN 978-4-06-512382-9
----------	--

参考書	小宮あすか・布井雅人（2018）．Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社 ISBN 978-4061548121
-----	--

授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	教科書を用いて、授業内容についての復習を求めます。さらに、前回授業の内容をまとめて提出する復習課題を課します。復習課題については、確認後返却します。60時間の授業外学習が必要です。
-----------------------------	--

オフィスアワー	一覧表参照。ただし、研究室在室時は随時対応可。
---------	-------------------------

担当教員からのメッセージ	「統計」と聞くと身構える人がほとんどだと思います。確かに、統計学という学問は非常に難しく、一朝一夕に理解することが出来る学問ではありません。しかし、この授業は「統計学を理解するための授業」ではなく、「心理学で統計を使うための授業」です。数学的な話は最小限にとどめて話を進めますので、安心して受講してください。
--------------	--

担当教員の連絡先	nunoi-m@seisen.ac.jp
----------	----------------------

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	知覚・認知心理学	授業コード	1061
英文科目名称			
担当教員	布井雅人		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	月曜日 5 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	◎ - DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) - DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) - DP③ コミュニケーション能力 - DP④ 専門的知識・技能の習得 - DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) - DP⑥ 問題発見・解決力																																																
授業の概要	2017年度以前入学生カリキュラムは「知覚心理学」 我々が外界からの情報をどのように処理しているのかについて、見る・聞くといった知覚段階から、注意・記憶・思考といった認知段階にいたるまでを概説する。 この科目は、公認心理師受験資格取得のための必修科目である。																																																
授業のねらい	普段我々が当たり前に行っている知覚・認知と心との関係についての基本的な知識を身につけることを目指す。																																																
授業の到達目標	知覚・認知に関する心理学の基本的知見を理解できる。																																																
授業スケジュール	<table><tr><th>回</th><th>授業計画</th><th>学習のポイント</th></tr><tr><td>1</td><td>視覚とは</td><td>感覚とは、モノが見える仕組み</td></tr><tr><td>2</td><td>明るさと色の知覚</td><td>光から色を感じる仕組み</td></tr><tr><td>3</td><td>形の知覚</td><td>いかに形は見出されるのか、パターン認知</td></tr><tr><td>4</td><td>奥行きの知覚</td><td>単眼性・両眼性の奥行き認知</td></tr><tr><td>5</td><td>動きの知覚</td><td>動きを感じることができる仕組み</td></tr><tr><td>6</td><td>顔の知覚</td><td>顔の特殊性</td></tr><tr><td>7</td><td>聴覚</td><td>音が聞こえる仕組み、音の知覚的特徴、音源定位</td></tr><tr><td>8</td><td>異種感覚間統合</td><td>様々な感覚の統合</td></tr><tr><td>9</td><td>中間テスト</td><td>知覚の内容についての確認</td></tr><tr><td>10</td><td>注意(1)</td><td>情報選択機能</td></tr><tr><td>11</td><td>注意(2)</td><td>視覚探索</td></tr><tr><td>12</td><td>記憶</td><td>記憶の種類、記銘方略</td></tr><tr><td>13</td><td>思考(1)</td><td>問題解決・推論</td></tr><tr><td>14</td><td>思考(2)</td><td>意思決定</td></tr><tr><td>15</td><td>選好</td><td>好き・嫌いをもたらすところの仕組み</td></tr></table>	回	授業計画	学習のポイント	1	視覚とは	感覚とは、モノが見える仕組み	2	明るさと色の知覚	光から色を感じる仕組み	3	形の知覚	いかに形は見出されるのか、パターン認知	4	奥行きの知覚	単眼性・両眼性の奥行き認知	5	動きの知覚	動きを感じることができる仕組み	6	顔の知覚	顔の特殊性	7	聴覚	音が聞こえる仕組み、音の知覚的特徴、音源定位	8	異種感覚間統合	様々な感覚の統合	9	中間テスト	知覚の内容についての確認	10	注意(1)	情報選択機能	11	注意(2)	視覚探索	12	記憶	記憶の種類、記銘方略	13	思考(1)	問題解決・推論	14	思考(2)	意思決定	15	選好	好き・嫌いをもたらすところの仕組み
回	授業計画	学習のポイント																																															
1	視覚とは	感覚とは、モノが見える仕組み																																															
2	明るさと色の知覚	光から色を感じる仕組み																																															
3	形の知覚	いかに形は見出されるのか、パターン認知																																															
4	奥行きの知覚	単眼性・両眼性の奥行き認知																																															
5	動きの知覚	動きを感じることができる仕組み																																															
6	顔の知覚	顔の特殊性																																															
7	聴覚	音が聞こえる仕組み、音の知覚的特徴、音源定位																																															
8	異種感覚間統合	様々な感覚の統合																																															
9	中間テスト	知覚の内容についての確認																																															
10	注意(1)	情報選択機能																																															
11	注意(2)	視覚探索																																															
12	記憶	記憶の種類、記銘方略																																															
13	思考(1)	問題解決・推論																																															
14	思考(2)	意思決定																																															
15	選好	好き・嫌いをもたらすところの仕組み																																															
履修要件	特になし																																																
成績評価の方法・基準	復習課題：30%（復習課題の提出：15%、中間テスト：15%） 定期試験：70%（全ての講義を通じての授業内容の理解）																																																
教科書・テキスト	指定しない																																																
参考書	授業中に適宜紹介する																																																
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	前回授業の内容についての復習課題を課します。復習課題については、manabaにて解答を公開します。授業の復習と合わせて60時間の授業外学習が必要です。																																																
オフィスアワー	一覧表参照。ただし、研究室在室時は随時対応可。																																																
担当教員からのメッセージ	我々が日常生活の中で当たり前のように行っていることを支えているところの働きを学びましょう。																																																
担当教員の連絡先	nunoi-m@seisen.ac.jp																																																

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	運動心理学	授業コード	1070
英文科目名称			
担当教員	炭谷将史		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	火曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ◎ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	2017年度以前入学生カリキュラムは「健康運動心理学」 本講義では、運動と知覚、発達、学習などの点について、生態学的心理学の視点から概説する。動くとはどういうことか。私たちは動くときに、どのような情報を生かしているのかなどを学ぶ。体験的に理解することを目的とした実践的な作業をすることもある。
-------	---

授業のねらい	運動はあらゆる動物が生きていくために欠かすことのできない営みである。運動は、動くこと全般のことであり、決してスポーツだけを指し示す言葉ではない。本講義では、運動が生きて行く上で果たしている役割（例えば知覚）や運動と子どもの発達の関係性、運動が上手になるとはどういうことかなど、心理学的視点から学ぶことをねらいとする。
--------	--

授業の到達目標	1. 運動と知覚の相互作用性を理解すること 2. 健康な生活のためには運動が欠かすことができないことを説明できること 3. 運動を通じた人間の発達や学習を理解すること
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション 運動はなぜ大切なのか。	授業の目的・進め方・評価の仕方等を理解する。 健康な生活を送る上で運動はなぜ大切なのだろうか。スポーツとの対比の中で運動が健康な生活に果たす役割を理解する。また、運動心理学には2つの流れがあることを理解する ※シラバスを事前に読んでおくこと（1時間）
	2	運動の不思議（1）	運動は知覚である。あるアスリートが運動中に見ている世界を理解することで、知覚が運動と結びつくシステムであることを理解する。 ※事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	3	運動と知覚（1）	知覚は運動と環境の相互作用の中で起こるシステムであることを理解する。 ※事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	4	運動の不思議（2）	運動は環境との接点での知覚を生み出していることを理解する。特にスピードスケートの選手が靴と氷の間で知覚している世界を具体例として考える。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	5	運動と知覚（2）	私たちは能動的に動くことで外界を主体的に感じている。実験なども交えながら、ダイナミックタッチを理解する。 ※前回授業の復習（4時間）
	6	運動の不思議（3）	運動と知覚の変化を学ぶ。私たちはどうやって自分の動きとまわりの動きを区別しているのだろうか。ここでは人間以外の動物の動きも含めて理解する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	7	運動と知覚（3）	人とすれ違う時に、どの辺りで進路変更をしたら良いのかなどを私たちはどうやって判断しているのだろうか？ ※前回授業の復習（4時間）
	8	運動と発達（1）	胎児が母胎内で発達させる各種能力と母胎内の環境の関係性を理解する。 ※前回授業の復習（4時間）
	9	運動と発達（2）	頸椎損傷者が再び行為を獲得するまでのプロセスを通じて、動きを獲得するとはどういうことなのかを理解する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	10	運動と発達（3）	子どもは遊びの中で発達すると考えられる。子どもが喜ぶ運動遊びの環境とはどのような特徴を持つ場なのだろうか。最新の研究知見を踏まえて、子どもの発達と運動を理解する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）
	11	健康になるための運動（1）高齢者	高齢者が健全な発達をするために必要な運動のあり方、場所の特性、高齢者が健康になるまちづくりなどを学ぶ。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読んでくること（4時間）

	12	健康になるための運動（2）女性	女性の生理的特性を踏まえた上で、女性が健康に生活できるための運動のあり方、環境づくりを検討する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読むこと（4時間）
	13	運動が上手になるとはどういうことか（1）	生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者まで、私たちは運動を変化させながら生活を維持している。運動ができるようになるとはどういうことかを跳び箱運動などを具体例にして考えてみたい。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読むこと（4時間）
	14	運動が上手になるとはどういうことか（2）	運動が「わかる」と運動が「できる」は具体的に何が違うのだろうか。動ける身体を育てるための工夫を検討する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読むこと（4時間）
	15	運動が上手になるとはどういうことか（3）	現代人に必要な身体、子どもたちに育てて欲しい身体を検討する。 ※前回の復習および事前に渡してある資料を読むこと（4時間）
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験、50%、授業内容に関する試験 ・各種課題、50%、授業内で提示される課題図書に関するミニレポート		
教科書・テキスト	授業内で配布する各種資料		
参考書	『アフォーダンス』佐々木正人著 岩波書店 『時速250kmのシャトルが見える』佐々木正人 光文社新書 『新版アフォーダンス』佐々木正人 岩波書店 他、随時講義内でご紹介します。		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	・事前に配布される課題図書を必ず読んでから講義に参加すること。 ・ミニレポートに対するフィードバックは授業内に実施する。		
オフィスアワー	一覧表を参照。原則として研究室在室時は随時対応可。		
担当教員からのメッセージ	「動く」ということ（運動）は動物（動く物）である私たち人間にとって生きる土台です。その運動について心理学の視点からあれこれと考えてみたいと思っています。		
担当教員の連絡先	sumiya-m@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	教育・学校心理学	授業コード	1064
英文科目名称			
担当教員	谷口麻起子		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	火曜日 2時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 ■該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	： DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ： DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ： DP③ コミュニケーション能力 ○ ： DP④ 専門的知識・技能の習得 ： DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ： DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	「学校」というのは誰にとっても身近な存在でありながら、あらためてどのような場所であるのかについて考える機会が少ない。 そこでこの授業では、「学校」という世界はどのようなものなのか、そして「学校」や「学校」に関わる人々には何が起きているのかについて、臨床心理学的観点から考える。 授業は講義形式で行う。 この授業は公認心理師受験のための必修科目である。 2017年度以前カリキュラムでは「学校心理学」
-------	--

授業のねらい	本学人間学部生は他の授業において、そして卒業後も学校現場に関わることが多い。 そこで本授業では、実践に入るために必要な「学校」に関する基礎知識を学び、さらに臨床的な考え方・かわり方を身に付ける。
--------	---

授業の到達目標	・自分がこれまで体験してきた「学校生活」について、心理学的観点から捉えられるようになる。 ・「学校」というのがどのような場であるのかについて、基礎的な知識を身につける。 ・「学校」で起きる様々な現象を心理学的に捉え、臨床的に関わる姿勢を身につける。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	履修にあたってのオリエンテーション 授業の全体像を解説する。
	2	学校とはどのような場か	学校とはそもそもどのような場所として位置づけられているのか。 それに対して学校とは一般にはどのように認識されているのか。 両者を比較しつつ、学校の位置づけとイメージを明確にする。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	3	学校をどのように捉えるか	教育学と心理学、それぞれの考え方について解説し、 学校を捉える視座を広げる。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	4	学校の日常/非日常を考える	学校の日常場面は心理学的にどのような世界なのかを考える。 また学校で起きる事故について知る。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	5	授業について	「授業」とはどのような場なのかを考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	6	各学校の特徴	小学校から大学までの各学校の特徴と、通う生徒・学生の発達の意味を考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	7	学ぶということについて	人はなぜ学ぶのか、あるいは学ばないのか、について考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	8	授業の方法	授業の方法論を紹介する。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	9	学級崩壊について	学級崩壊がなぜ起きるのかについて考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	10	いじめについて	学校という場で起きやすい、「いじめ」について考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	11	不登校について	学校現場でしばしば大きな問題となる、「不登校」について考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	12	虐待について	学校現場における虐待とその対応について考える。 ＊ レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	13	発達障害について	発達障害とはどのようなものか、また学校における支援はどのようなことが可能かを考える。

			* レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	14	教師のメンタルヘルス	教師を支えるということも心理的支援として重要である。 教師が抱える問題はどのようなものがあり、支援はどのようなされているかについて考える。 * レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間）
	15	スクールカウンセラー	スクールカウンセラーの実際について解説する。 * レポート作成（テーマは授業内で指示 4時間） * 試験のための復習 4時間以上
履修要件	特にありません。		
成績評価の方法・基準	平常点30%、授業中に出す課題、及び授業後に出すコメント 定期試験、70%、心理学的な考え方が身についているかどうかを論述問題で主に評価します。		
教科書・テキスト	なし		
参考書	授業にて適宜紹介する。		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	課題としてレポートを出す。提出先はmanaba、フィードバックは授業にて行います。		
オフィスアワー	一覧表参照のこと		
担当教員からのメッセージ	授業中の私語、携帯電話の使用を禁止します。 その他、授業や他学生への迷惑行為となることをする学生は履修することができません。 臨床心理士としての実務経験に基づく講義をします。		
担当教員の連絡先	tanigu-m@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	スポーツ科学入門	授業コード	1048
英文科目名称			
担当教員	多胡陽介 山堀貴彦 山越章平		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	2
曜日・時限	水曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	現代におけるスポーツという文化の意味やその役割、スポーツと健康のかかわり、スポーツ活動の創造に係わる知識など、スポーツを科学的に把握していくための基礎となる考え方や学問に関する基礎知識をオムニバス方式で学ぶ。
-------	--

授業のねらい	スポーツとその周辺領域をさまざまな科学的アプローチから探るきっかけをもつとともに、スポーツの科学的な見方や捉え方に関する基礎的知識を身に付け、スポーツ科学に関する興味・関心を喚起する。
--------	--

授業の到達目標	1. スポーツ活動や健康・体力について興味を持ち、科学的に探究しようとする姿勢や態度が身に付く。 2. スポーツの歴史を踏まえ、現代社会におけるスポーツの意義や課題について考えを述べる事が出来る。 3. スポーツと「こころ」の関係や結びつきについて説明できる。 4. スポーツと身体動作や体力の関係について、健康づくりやトレーニングに関する基礎知識を説明できる。 5. 現代社会におけるスポーツの普及や競技スポーツの発展について考えを述べる事が出来る。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	ガイダンス	授業の進め方、ねらい、到達目標、担当ごとの学習内容、評価の観点と方法、その他(多胡) ※予習と復習(4時間)
	2	スポーツとは何か	スポーツの発生や語源、近代スポーツの成立と発展、スポーツ構造とスポーツ活動、プレイ(競技する)とは(多胡) ※予習と復習(4時間)
	3	スポーツと文化	身体と文化、運動文化としてのスポーツ、日本文化からみた武道(多胡) ※予習と復習(4時間)
	4	現代スポーツの課題	現代スポーツにおける諸課題、スポーツと倫理、アマチュアリズムと商業主義、その他(多胡) ※予習と復習(4時間)
	5	スポーツと体力①	体力の概念について(多胡) ※予習と復習(4時間)
	6	スポーツと体力②	体力の要素と体力モデル(多胡) ※予習と復習(4時間)
	7	スポーツとトレーニング①	トレーニングの進め方(原理・原則、W-up・C-down)(多胡) ※予習と復習(4時間)
	8	スポーツとトレーニング②	トレーニングの種類(山堀) ※予習と復習(4時間)
	9	日本のスポーツと世界のスポーツ①	日本人のスポーツ観と欧米のスポーツ観を比較(山堀) ※予習と復習(4時間)
	10	日本のスポーツと世界のスポーツ②	チャンピオンスポーツの選手育成方法や強化の実態を比較(山堀) ※予習と復習(4時間)
	11	日本のスポーツと世界のスポーツ③	日本と海外の指導者育成やコーチングの現状を比較(山堀) ※予習と復習(4時間)
	12	スポーツと心①	スポーツ行動を心理学の観点から分解し、その構造を理解するとともに重要性を知る(山越) ※予習と復習(4時間)
	13	スポーツと心②	子どものスポーツ活動と心の成長について、心理学の観点から考察する(山越) ※予習と復習(4時間)
	14	スポーツと心③	競技スポーツにおける心の使い方、コントロールの仕方について考察する(山越) ※予習と復習(4時間)
	15	スポーツと心④	現代社会におけるスポーツの役割と機能を心理学の観点から考察する(山越) ※復習(4時間)

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	・学習の態度・積極性(10%) ・授業内に課すレポート・小テスト(90%:各担当30%ずつ)
------------	---

教科書・テキスト	授業時に資料を作成し配布する
----------	----------------

参考書	特になし
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	次回の学習内容について、質問を考えておくこと
オフィスアワー	一覧表を参照、在室時はいつでも可
担当教員からの メッセージ	オムニバスで実施するため、担当が入れ替わります
担当教員の連絡先	多胡：tago-y@seisen.ac.jp 山堀：yamaho-t@seisen.ac.jp 山越：yamako-s@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	実用中国語A	授業コード	1004 1005
英文科目名称			
担当教員	方蘇春 李艶		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	2
曜日・時限	水曜日 2時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	○ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ◎ : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	大学生生活に密着した内容に絞り、実用性の高い中国語会話の勉強を行っていく。テキストの構成はイラスト入りの関連用語と中国諸事情を紹介する「ひとロメモ」によって、その課の手引きとしている。次に、実際の生活場面を設定した会話文と新出単語を掲げ、以下文法のポイント、トレーニング、教室用語などの順になっている。なお、テキスト以外の参考書の内容も一部授業に取り入れる。
-------	---

授業のねらい	DP3◎ 基礎的な中国語を覚えてもらう。 DP1○ 中国語を勉強ながら、中国に関する基礎知識を知ってもらう。
--------	---

授業の到達目標	1. 中国語の基本的な発音をマスターする 2. 約300語の中国語単語を覚える 3. 初歩的な中国語会話をマスターする
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	授業の進め方・狙い、評価する方法など ウォーミングアップ 中国はどんな国？中国語はどんな言葉？
	2	中国語発音の基礎①	単母音と声調（四声）を正しく発音する 子音と声調を正しく発音する
	3	中国語発音の基礎②	複合母音を正しく発音する 鼻母音を正しく発音する
	4	中国語発音の基礎③	中国語発音のトレーニング
	5	第一？ ？是中国人？？	1. 人称代名詞 2. “是”の文
	6	第二？ ？是什麼？？	1. 指示代名詞（1） 2. 疑問詞疑問文 3. “的”の用法
	7	第三？ ？去？几？(1)	1. 動詞の文
	8	第三？ ？去？几？(2)	2. 「所有」を表す“有” 3. 省略疑問の“”
	9	第四？ ？个包多少？？(1)	1. 量詞 2. 指示代名詞（2）
	10	第四？ ？个包多少？？(2)	3. 形容詞の文 4. “”と“多少”
	11	第五？ ？？上有事？？(1)	1. 数字
	12	第五？ ？？上有事？？(2)	2. 日付・時刻を表す語 3. 「動作の時点」を言う表現
	13	第六？ ？吃？了？？(1)	1. 「完了」を表す“了”
	14	第六？ ？吃？了？？(2)	2. 「所在」を表す“在” 3. 助動詞（1）“想”
	15	中間まとめ	第1～6課を復習する
	16	中間テスト	これまでの目標達成状況を確認する（筆記試験を行う）
	17	第七？ ？家有几口人？(1)	1. 介詞（1）
	18	第七？ ？家有几口人？(2)	2. 「存在」を表す“有” 3. 反復疑問文
	19	第八？ ？从几点打工？(1)	1. 「時間量」を表す語
	20	第八？ ？从几点打工？(2)	2. 助動詞（2） 3. 介詞（2）
	21	第九？ ？去？美国？？(1)	1. 「過去の経験」を表す“”
	22	第九？ ？去？美国？？(2)	2. “是～的”の文 3. 介詞（3）

	23	第十？ ？会唱歌？?(1)	1. 助動詞（3）
	24	第十？ ？会唱歌？?(2)	2. 「動作の様態」を言う表現 3. 動詞の重ね型
	25	第十一？ ？在干什？?(1)	1. 「動作の進行」を表す“在～” 2. 「～しに来る・～しに行く」の表し方
	26	第十一？ ？在干什？?(2)	3. 選択疑問文 4. 目的語を文頭に出す表現
	27	第十二？ 祝？旅途愉快！（1）	1. 「比較」の表現 2. “的”の用法（2）
	28	第十二？ 祝？旅途愉快！（2）	3. 2つの目的語をとる動詞 4. 目的語が主述句のとき
	29	後半のまとめ	第7～12課を復習する
	30	総まとめ	これまで学習した内容の総括を行う
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験：50% 到達目標の達成度を確かめるための筆記試験 平常点：50% 中間テスト（20%）、受講態度・宿題完成状況など（30%）		
教科書・テキスト	『最新2訂版 中国語初めての一步』 竹島全吾 監修、尹 景春・竹島 毅 著、白水社		
参考書	授業中で指示する		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	テキストに付属しているCDを活用して、合わせて30時間以上の学外学習（予習・復習）を行ってください		
オフィスアワー	方：毎週木曜日3限 方研究室 李：金曜日4限 李研究室		
担当教員からのメッセージ	「中国語が難しい」という先入観を排して、楽しく勉強していこう		
担当教員の連絡先	方：fang-s@seisen.ac.jp 李：li-y@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	情報処理入門-3	授業コード	1013
英文科目名称			
担当教員	小澤克彦		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	1
曜日・時限	水曜日 5 時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ◎ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	Windows 10の基本操作および学内の情報環境やネットワーク（授業科目フォルダ、Active Classs、AAA）を使用するための基本技術の習得。タッチタイピングの習得、ワードでのビジネス文書の作成、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料の作成を行う。
-------	--

授業のねらい	DP⑥◎ 文書作成、電子メールの送受信やインターネットの活用を通してパソコンを使用したコミュニケーションの実践を学ぶ。さらに、パソコンでのデータ処理を効率的に行うため、入力速度の向上、各種の書式設定、文書の修飾、プレゼンテーション資料の作成等を学習する。
--------	---

授業の到達目標	1. 情報センター、学内ネットワークの活用方法をマスターする。 2. 日本語文書作成の基本を習得し、簡単なビジネス文書が作成できる。 3. プレゼンテーションソフトを活用したプレゼンテーションが実行できる。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	学内ネットワーク、パスワードの変更、「課題教材」フォルダと「課題提出」フォルダ、タッチタイピングの基礎
	2	インターネットを使ってみよう①	文章入力の基礎。電子メールを作成する。タイピング練習ソフトの活用。
	3	インターネットを使ってみよう②	検定問題を用いたタイピング練習。電子メールのファイル添付、アドレス帳管理、インターネットの活用を学ぶ。
	4	文書作成演習①	検定問題を用いたタイピング練習。ページ設定①、レポートを作成① 検定問題を用いた文書作成。
	5	文章作成演習②	検定問題を用いたタイピング練習。ページ設定②、印刷、保存、レポートを作成② 検定問題を用いた文書作成。
	6	ビジネス文書作成①	検定問題を用いたタイピング練習。ビジネス文書作成①、基本パターンの学習、表の作成 検定問題を用いた文書作成。
	7	ビジネス文書作成②	検定問題を用いたタイピング練習。ビジネス文書作成②、表の作成と修正 検定問題を用いた文書作成。
	8	ビジネス文書作成③	検定問題を用いたタイピング練習。段落と箇条書き 検定問題を用いた文書作成。
	9	便利な機能	検定問題を用いたタイピング練習。拡張書式設定、ページヘッダーとフッター 検定問題を用いた文書作成。
	10	社内文書	検定問題を用いたタイピング練習。アクセントのある文書①、ワードアートの活用 検定問題を用いた文書作成。
	11	社外文書	検定問題を用いたタイピング練習。アクセントのある文書②、写真や図の挿入、クリップアート、オートシェイプ、テキストボックスなどの活用 検定問題を用いた文書作成。
	12	プレゼンテーション作成①	検定問題を用いたタイピング練習。プレゼンテーション作成①、パワーポイントの基礎
	13	プレゼンテーション作成②	検定問題を用いたタイピング練習。プレゼンテーション作成②、アニメーション効果の導入、スライドショーの実行、配布資料の作成など
	14	プレゼンテーション作成③	検定問題を用いたタイピング練習。与えられた課題についてプレゼンテーション用スライドを作成する
	15	まとめ	まとめと総復習

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験、50%、授業の到達目標についての達成度を確かめるための実技試験・平常点、50%、課題学習および、授業毎の成果物等、授業態度
------------	--

教科書・テキスト	情報リテラシー Windows10 Edge Word2016 Excel2016 PowerPoint2016 出版社：FOM出版
参考書	授業中に指示
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	余裕時間を利用して第1コンピュータ室でタッチタイピング、文書作成、検定受験などの練習をしてください。「ゴールドフィンガー」でタッチタイピングの練習をして、「文章自動採点システム」で文章入力問題を少なくとも1週に1問以上は練習すること。次回の授業の内容の予習を1時間、授業中の問題を1時間以上かけて復習すること。
オフィスアワー	別紙一覧を参照
担当教員からの メッセージ	ワード、パワーポイントは会社でも必須です。必ずできるようになってください。
担当教員の連絡先	小澤：ozawa-k@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	社会学概論	授業コード	1170
英文科目名称			
担当教員	富川拓		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	人間は他者との関係の中で生かされている、単独の個としては存在できない「社会的動物」といわれています。社会学は私たちが生きるこの「社会(人と人との関係)」を研究対象とする学問です。様々な社会現象を社会学独自の視点、理論で分析することがその特徴となります。 本授業は原則講義形式で実施します。社会学の歴史・理論を概説したうえで、具体的な社会現象、社会問題を取り上げ、社会学の視点で分析します。受講生それぞれが社会学の視点で考える力を身につけられるよう解説します。
-------	--

授業のねらい	DP4○ 本授業のねらい、目的は下記のとおりです。 1. 社会のなかで生きる「人間」に対する理解を深め、様々な社会現象を社会学の視点で分析できるようになる。 2. 身近な社会問題について、主体的に考えられるようになる。
--------	--

授業の到達目標	本授業の到達目標は下記のとおりです。 1. 社会学の歴史を学び、各種理論を理解する。 2. 社会の影響を受けている「自分自身」への理解を深める。 3. 社会の中で共に生きる「他者」への理解を深める。 4. 様々な社会現象に関心を持ち、身近な社会問題の解決に向けて、主体的に考えることができるようになる。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション、社会学とは	講義の進め方、評価方法について説明する。 社会学の特徴、社会学的想像力について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	2	社会学の歴史	コント、スペンサー、ジンメル、デュルケム、ヴェーバー等について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	3	行為・相互行為・社会関係・パーソナリティ・地位・役割	行為・相互行為の類型・パーソナリティ、自我、アイデンティティ、社会化、役割期待等について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	4	集団・組織・ネットワーク	集団・組織の機能、官僚制、ネットワーク論等について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	5	ジェンダー①	社会、文化的な性であるジェンダーについて学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	6	ジェンダー②	引き続き、ジェンダーについて学ぶ。LGBT、男女共同参画等について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	7	家族・子育て①	家族・子育てについて、社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	8	家族・子育て②	引き続き、家族・子育てについて、社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	9	教育	教育について、社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	10	マイノリティ	マイノリティについて、社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	11	ボランティア	ボランティア、ボランティア活動について社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	12	メディア	メディアについて社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	13	地域	地域社会、まちづくり等について社会学の視点で考える。 (事後学習 4 時間)
	14	社会調査	社会調査と分析手法について学ぶ。 (事後学習 4 時間)
	15	まとめ	学習内容を振り返り、整理する。 (事後学習 4 時間)

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	平常点：40%（受講態度、授業中に指示する各種課題） 定期試験：60%（到達目標確認のためのレポート）
教科書・テキスト	使用しません
参考書	丸山哲央編著，2012，『現代の社会学 ―グローバル化のなかで』ミネルヴァ書房. その他、授業中に指示
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	授業中に課題を出します。授業で学んだ内容を踏まえて作成し、提出期限を守って提出するようにしてください。事後学習4時間（毎回）
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照してください。
担当教員からのメッセージ	事前・事後学習もしっかり取り組んでください。
担当教員の連絡先	学内メールアドレス：tomika-t@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	リスク・危機管理心理学	授業コード	1090
英文科目名称			
担当教員	李艶		
配当年次・実施時期	4学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 2時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	心理学視点から、学校・社会・医療・産業・自然におけるリスク・危機管理の心理学を教授する。また社会の様々な分野における安全・信頼行動やヒューマンエラーなどについての心理学的研究とこれからの展望について説明する。さらに災害予防とリスクコミュニケーションについての理解を促進させる。
-------	--

授業のねらい	DP4○ DP5△ リスク・危機管理心理学基礎概念・意義を理解する。リスク心理学の専門的知識を習得する。安全意識を高め、日ごろの安全を守り、安心できる社会づくりに役立つ知識を習得する。
--------	--

授業の到達目標	1. リスク・危機管理の心理学知識を理解する。 2. リスクを低減し、安全性を高めるためには、物心両面からの様々な対策や制度作りに関心を持つ。 3. 危険・危機状況に遭遇するとき、すばやい情報伝達としてのコミュニケーションの役割・機能を身につける。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	授業の計画、成績評価、授業の進め方、受験生への要望、教科書と参考書などの説明。 シラバスを事前にしっかり読んでおくこと。予習(2時間)
	2	リスク・危機管理の概念・意義	リスク危機管理心理学とは何かを説明する。人間のライフ・サイクルと社会の安全・信頼感の視点から検討する。 授業内容の復習及び次回授業の予習(2時間)
	3	リスク心理学①	リスク・クライシス事態における人間の心理と行動について学習する。 授業内容の復習及び次回授業の予習(2時間)
	4	リスク心理学②	メタ認知心理学視点からミスを防ぐとリスクを減らすについて学習する。 メタ認知の学習及び次回の予習(6時間)
	5	リスク心理学③	セルフ・サイエンス視点からミスを防ぐとリスクを減らすについて学習する。 授業内容の復習及び次回授業の予習(4時間)
	6	リスク心理学④	知覚・感覚心理学視点からミスを防ぐとリスクを減らすについて学習する。 授業内容の復習及び次回授業の予習(4時間)
	7	リスク心理学⑤	知識管理心理学からミスを防ぐとリスクを減らすについて学習する。 これまで授業内容の総復習(8時間)
	8	家庭・学校におけるリスク・危機管理	家庭・社会におけるリスクと安全・信頼について検討する。 メタ認知の学習及び次回の予習(6時間)
	9	社会・産業におけるリスク・危機管理	社会・産業におけるリスクと安全・信頼(事故、ヒューマンエラー、失業など)について検討する。 復習及び次回の予習(4時間)
	10	医療におけるリスク・危機管理	医療におけるリスクと安全・信頼(院内感染、患者の取り間違いについて)検討する。 復習及び次回の予習(4時間)
	11	自然におけるリスク・危機管理	自然と安全・信頼(自然災害、環境保全・保護など)検討する。 中間課題(教室外の取り組み)の準備と復習(8時間)
	12	国際におけるリスク・危機管理	国際的な安全・信頼(紛争、戦争、文化・政治・経済的摩擦など)中間課題の完成と復習(6時間)
	13	災害予防とリスクコミュニケーション	自然災害・労災・事故・犯罪の場合について検討する。 復習及び予習(2時間)
	14	安全文化①	生活環境の安全についてのフィールド調査を行う。 調査のまとめと総復習(8時間)
	15	安全文化②	安全・信頼教育及び安全倫理について学習。安全文化の創造と構築について検討する。 総復習(8時間)

履修要件	社会心理学を履修したことが望ましい。
------	--------------------

成績評価の方法・基準	期末試験：80% 授業の理解度・到達度を確かめるため、筆記形式の試験を行う。 平常点：20% 中間課題・学習態度など
------------	---

教科書・テキスト	指定なし
----------	------

参考書	授業中に指示する
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	事前に予習してもらう内容などを指示し、予習することが求める。具体的には毎回授業の最後に、次の授業の内容を予告し、復習と予習の内容と時間について具体的に指示する。 マナバーを使って中間課題を掲載し、期限まで提出すること。課題提出期限の翌週の授業で講評などでフィードバックする。教室外取り組みがあり、事前の学習準備が必須。
オフィスアワー	前期・後期共通(金)5限 454研究室
担当教員からのメッセージ	最初授業に授業の計画、成績評価、授業の進め方、受験生への要望、教科書と参考書などを説明する。しっかり聞いて理解したうえで、この授業を履修してください。授業中にノートをしっかりとること。
担当教員の連絡先	li-y@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	自然科学の発展	授業コード	1043
英文科目名称	History of Natural Science		
担当教員	方蘇春		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 2時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	○：DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ：DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ：DP③ コミュニケーション能力 △：DP④ 専門的知識・技能の習得 ：DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ：DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	この授業では、自然科学の歴史と、自然科学の発展による文明社会に及ぼす影響、とりわけ著名科学者による自然科学の発展への貢献について学習していく。また、自然科学の発展がもたらした自然環境へのインパクトなど否定的な側面についても説明を行う。
-------	---

授業のねらい	DP1○ 受講者の自然科学に対する理解を深めてもらう。 DP4△ 受講者の教養のレベルアップを図る。
--------	---

授業の到達目標	1. 自然科学の主な歴史を知る 2. 自然科学の社会発展への貢献を理解する 3. 自然科学の発展がもたらした否定的な側面を知る
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する
	2	自然科学の方法と分類	自然科学の一般的な研究方法と分類
	3	自然科学の歴史①	原始時代の技術と自然科学
	4	自然科学の歴史②	古代4大文明。4大文明の共通な特徴など。
	5	自然科学の歴史③	古代ヨーロッパの自然観
	6	自然科学の歴史④	古代中国の科学技術(特に4大発明など)
	7	自然科学の歴史⑤	中世の科学と西欧
	8	中間まとめ	これまでの講義内容をまとめて復習する
	9	自然科学の歴史⑥	近代自然科学の成立
	10	自然科学の歴史⑦	産業革命と科学
	11	自然科学の歴史⑧	近代科学の発展
	12	自然科学の歴史⑨	現代科学の発展(その1)
	13	自然科学の歴史⑩	現代科学の発展(その2)
	14	自然科学と社会	自然科学の社会への寄与とその否定的側面
	15	総まとめ	講義の総括を行う

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験、70%、到達目標の達成度を確かめるための筆記試験 ・平常点、30%、毎回授業中で配布するコミュニケーションシートの活用状況や受講態度など
------------	--

教科書・テキスト	教科書を使用しないが、毎回、講義要点をまとめたプリントを配布する
----------	----------------------------------

参考書	『自然科学への招待』宇佐美正一郎 著、開成出版、2000.3
-----	--------------------------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	教科書を指定しないが、授業中で参考書と予習・復習する要点を指示する。図書館等を利用して、合せて授業外学習(予習・復習)60時間以上を行うこと。
-----------------------------	---

オフィスアワー	木曜日3限(13:00~14:30)、方研究室(256号室)
---------	--------------------------------

担当教員からのメッセージ	心理学や医学も自然科学の範疇に入っている。温故知新の意味で自然科学の発展過程を知ることがきっと皆さんに役に立つと考える。
--------------	--

担当教員の連絡先	E-mail: fang-s@seisen.ac.jp、内線電話: 531(電話: 0749-43-7531)
----------	---

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理学基礎演習Ⅰ	授業コード	1189
英文科目名称			
担当教員	布井雅人 山越章平 山崎校 森田磨里絵		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 2時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ◎ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	心理学の基礎的な実験を4つ取り上げ、実験者及び実験参加者を体験してもらいます。さらに、それらの実験で得られた結果をレポートとしてまとめてもらいます。
-------	--

授業のねらい	心理学実験の実施、結果の分析、レポート作成という心理学研究における基礎的な技能の習得を目指す。得られた結果についての客観的な分析を行うことができる力の習得を目指す。
--------	--

授業の到達目標	① 心理学における基本的なスタイルに沿ったレポートを作成することができる。 ② 実験データの基本的な分析・グラフ作成ができる。 ③ 実験結果を客観的・論理的な文章で報告することができる。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	パーソナルスペース(1)(布井・山越・森田・山崎)	パーソナルスペース実験の実施、データ入力
	2	パーソナルスペース(2)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成の注意点の説明、レポート作成
	3	パーソナルスペース(3)(布井・山越・森田・山崎)	データ分析、レポート作成
	4	パーソナルスペース(4)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	5	パーソナルスペース(5)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	6	パーソナルスペース(6)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	7	パーソナルスペース(7)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	8	パーソナルスペース(8)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	9	ミューラー・リヤー錯視(1)(布井・山越・森田・山崎)	ミューラー・リヤー錯視実験の実施、データ入力
	10	ミューラー・リヤー錯視(2)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成の注意点の説明、レポート作成
	11	ミューラー・リヤー錯視(3)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	12	ミューラー・リヤー錯視(4)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	13	ミューラー・リヤー錯視(5)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	14	ミューラー・リヤー錯視(6)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	15	ミューラー・リヤー錯視(7)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	16	記憶実験(1)(布井・山越・森田・山崎)	記憶実験の実施、データ入力
	17	記憶実験(2)(布井・山越・森田・山崎)	データ分析、レポート作成
	18	記憶実験(3)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成の注意点の説明、レポート作成
	19	記憶実験(4)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	20	記憶実験(5)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	21	記憶実験(6)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	22	記憶実験(7)(布井・山越・森田・山崎)	レポート作成

	23	記憶実験(8) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	24	ストループ効果(1) (布井・山越・森田・山崎)	ストループ効果実験の実施、データ入力
	25	ストループ効果(2) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成の注意点の説明、レポート作成
	26	ストループ効果(3) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	27	ストループ効果(4) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	28	ストループ効果(5) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	29	ストループ効果(6) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
	30	ストループ効果(7) (布井・山越・森田・山崎)	レポート作成
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	レポート：100%（実験の問題・方法・結果・考察が論理的、客観的にわかりやすく書かれているかを評価）		
教科書・テキスト	使用しない		
参考書	授業中に適宜紹介する		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	授業外の時間も利用してレポート作成を進める必要があります。また、レポートの「問題」「考察」部分をより良いものにするために、実験内容に関する分野の本を読み、理解を深める必要があります。それらを合わせて30時間以上の授業外学習が必要です。		
オフィスアワー	布井：一覧表参照 山越：一覧表参照 森田・山崎：授業時間後		
担当教員からのメッセージ	すべてのレポートが提出されなければ、単位取得が認められませんので十分に留意して下さい。		
担当教員の連絡先	布井：nunoi-m@seisen.ac.jp 山越：yamako-s@seisen.ac.jp 森田・山崎：教務課		

対象学生：	人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理学実験	授業コード	1221
英文科目名称			
担当教員	谷口麻起子 布井雅人		
配当年次・実施時期	3・前期	単位数	2
曜日・時限		時間数	
授業形態		科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー			
授業の概要	心理学の分野で研究を行うためには、講義や演習等で得られる知識も大切である一方、実験や調査等をきちんと遂行できること、得られたデータのまとめ方や書き方を心得ていることも重要です。この授業では、質問紙調査法もしくは実験法を用いる心理学の研究手法を習得するために、グループで実践的研究を行います。		
授業のねらい	各グループで調査計画を立て、データを収集・整理を行うとともに、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の手法を用いデータの分析を行います。これらを通して、卒業研究に取り組むために必要な準備を行います。		
授業の到達目標	1. 質問紙調査もしくは実験の研究計画を立て、計画を実施することができる。 2. 統計的手法による分析を理解し、実施できる。		
授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション①	心理学実験の概要の説明
	2	オリエンテーション②	研究計画立案のポイント概説・調査キーワードの決定・グループの決定 * テーマ決定についての調査、討論（4時間）
	3	統計的手法の理解①	統計的手法についてのレクチャー * テーマ決定についての調査、討論（4時間）
	4	統計的手法の理解②	統計的手法を用いた研究論文を読みながらの解説 * テーマ決定についての調査、討論（4時間）
	5	研究計画書の作成①	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	6	研究計画書の作成②	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	7	研究計画書の作成③	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	8	研究計画書の作成④	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	9	研究計画書の作成⑤	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	10	研究計画書の作成⑥	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	11	研究計画書の作成⑦	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる * 計画書の作成（4時間）
	12	研究計画書の作成⑧	グループごとにテーマを決め、研究目的、研究対象、研究内容などについて決定し、各グループの研究計画や仮説等を計画書の形にまとめる

			* 計画書の作成 (4時間)
	13	調査・実験の準備①	具体的な調査項目の選定、調査票の作成、調査対象確保のための準備、調査票の印刷、お礼状の作成…など、調査のための事前準備 あるいは実験準備、予備実験 * 調査・実験の準備 (4時間)
	14	調査・実験の準備②	具体的な調査項目の選定、調査票の作成、調査対象確保のための準備、調査票の印刷、お礼状の作成…など、調査のための事前準備 あるいは実験準備、予備実験 * 調査・実験の準備 (4時間)
	15	調査・実験の準備③	調査計画書および質問紙の完成 あるいは実験準備、予備実験 * 調査・実験の準備 (4時間)
	16	調査・実験の準備④	調査計画書および質問紙の完成 あるいは実験準備、予備実験 * 調査・実験の準備 (4時間)
	17	調査・実験期間 データ入力①	学内外においてデータを収集する。協力者への許可を取るなど必要なことをこの期間に済ませておく。時間内にデータを集めることが困難な場合は、授業外の時間を利用して調査を行う * 調査・実験の実施 データチェック (4時間)
	18	調査・実験期間 データ入力②	学内外においてデータを収集する。協力者への許可を取るなど必要なことをこの期間に済ませておく。時間内にデータを集めることが困難な場合は、授業外の時間を利用して調査を行う * 調査・実験の実施 データチェック (4時間)
	19	調査・実験期間 データ入力③	収集したデータは、逐次コンピュータに入力する (Excelを使用する)。同時に、入力データのチェック (誤入力がないかどうかの確認など) を行う * 調査・実験の実施 データチェック (4時間)
	20	調査・実験期間 データ入力④	収集したデータは、逐次コンピュータに入力する (Excelを使用する)。同時に、入力データのチェック (誤入力がないかどうかの確認など) を行う * 調査・実験の実施 データチェック (4時間)
	21	データ解析①	自分たちの取ってきたデータを、コンピュータによって解析してみる * 分析、結果についての討論 (4時間)
	22	データ解析②	自分たちの取ってきたデータを、コンピュータによって解析してみる * 分析、結果についての討論 (4時間)
	23	データ解析③	自分たちの取ってきたデータを、コンピュータによって解析してみる * 分析、結果についての討論 (4時間)
	24	データ解析④	自分たちの取ってきたデータを、コンピュータによって解析してみる * 分析、結果についての討論 (4時間)
	25	レポート作成①	解析した結果をもとにレポートを作成する * レポート作成 (4時間)
	26	レポート作成②	解析した結果をもとにレポートを作成する * レポート作成 (4時間)
	27	レポート作成③	解析した結果をもとにレポートを作成する * レポート作成 (4時間)
	28	レポート作成④	解析した結果をもとにレポートを作成する * レポート作成 (4時間)
	29	プレゼン資料の作成①	これまでの研究成果の発表準備を行う * ポスター作成・質疑応答準備 (4時間)
	30	プレゼン資料の作成②	これまでの研究成果の発表準備を行う * ポスター作成・質疑応答準備 (4時間) * プレゼンの実施、振り返り (4時間)
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	平常点、30%、主体的に研究計画の立案・調査の実施・分析に臨んでいるか。 ・定期試験、70%、レポートの完成度 (50%) プレゼン内容 (20%)		
教科書・テキスト	特になし		
参考書	特になし		
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	計画立案や実行のため、最低でも各回授業外学習が4時間必要である。		
オフィスアワー	一覧表参照		
担当教員からのメッセージ	授業日時については後日アナウンスする。 この授業の作業の多くがグループでの作業である。時間内に作業が終わらないことがあればお互いにスケジュールをあわせながら、負担が偏らないように調査やデータ入力等を進めていくこと。 提出物や資料配布はmanabaを使用する。 グループ活動となるので、責任をもって参加すること。		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	会計実務	授業コード	1022
英文科目名称			
担当教員	唐楽寧		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 4 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	日商簿記検定3級レベルの学習である。 日商簿記検定3級のレベルとは「財務担当者に必要な基本知識が身につく、商店、中小企業の経理事務に役立つ。経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになる」としている。授業では各章の内容と練習問題を解説する。
-------	--

授業のねらい	DP4○ 日商簿記3級の仕訳や財務諸表の基本的な仕組みについての基礎知識を習得することを目指す。 DP5△ 会計の側面から会社の仕組みを理解し、経営に関する必要な視点や思考力を習得することを目指す。
--------	--

授業の到達目標	授業の内容をよく理解し、日商簿記検定3級の合格を目指す。
---------	------------------------------

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	簿記の学習を始めよう	1. 簿記とはなにか。2. 簿記の目的。3. 会計期間。4. 財務諸表。5. 損益計算書と貸借対照表の関係。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	2	日々の帳簿記入	1. 取引とはなにか。2. 取引を記入するための勘定。3. 仕訳。4. 勘定口座への転記。5. 試算表の作成。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	3	商品売買	1. 三分割法。2. 掛取引による商品の売買。3. 商品の返品および値引。4. 引取運賃・発送費。5. 前払金・前受金。6. 商品券・他店商品券 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	4	現金・預金および手形	1. 現金。2. 現金過不足。3. 当座預金。4. 当座借越。5. 当座勘定。6. 手形の種類。7. 約束手形。8. 為替手形。9. 手形の裏書き。10. 手形の割引。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	5	その他の取引	1. 貸付金・借入金。2. 手形貸付金・手形借入金。3. 未収金・未払金。4. 立替金・預り金。5. 仮払金・借受金。6. 有価証券。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	6	〃	7. 有形固定資産。8. 収益と費用。9. 引出金。10. 訂正仕訳。11. 合計残高試算表。12. 合計試算表。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	7	主要簿と補助簿	1. 主要簿と補助簿。2. 仕訳帳と総勘定元帳。3. 補助記入帳。4. 現金出納帳。5. 当座預金出納帳。6. 小口現金出納帳。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	8	〃	7. 受取手形記入帳・支払手形記入帳。8. 仕入帳・売上帳。9. 補助元帳。10. 売掛金元帳・買掛金元帳。11. 商品在高帳。12. 各勘定と補助簿の関係 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	9	伝票会計	1. 伝票会計。2. 三伝票制。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	10	決算(Ⅰ)	1. 決算。2. 決算整理。3. 決算整理(1)売上原価の計算。4. 清算表の作成(Ⅰ)。5. 貸倒れの処理。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	11	〃	6. 決算整理(2)貸倒引当金の計上。7. 決算整理(3)有形固定資産の減価償却。8. 有形固定資産の売却。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	12	決算(Ⅱ)	1. 決算整理(4)費用・収益の繰延べ・見越し。2. 費用・収益の繰延べ。3. 費用・収益の見越し。4. 決算整理(5)消耗品の決算整理。5. 決算整理(6)現金過不足の決算整理。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	13	〃	6. 決算整理(7)現金の決算整理。7. 決算整理(8)売買目的有価証券の評価替え。8. 決算整理(9)引出金勘定の決算整理。9. 清算表の作成(Ⅱ) *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	14	決算(Ⅲ)	1. 総勘定元帳の締切り。2. 仕訳帳の締切り。3. 損益計算書および貸借対照表の作成。4. 終わりにあたって。 *授業の前後はそれぞれ1時間以上予習・復習すること。
	15	総まとめ	

履修要件	特にない。
成績評価の方法・基準	定期試験、70%、到達点を確認するための筆記試験 ・平常点、30%、講義に臨む姿勢や練習問題の完成度など
教科書・テキスト	「みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級 商業簿記 最新版」瀧澤まami、TAC出版 検定試験の新基準に対応する最新版テキストを使用する。
参考書	教科書の内容をよりよく理解するために、次の2冊の教科書（図書館蔵書）も活用してください。 1. 『スッキリわかる日商簿記3級』滝澤ななみ、TAC出版 2. 『サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト』福島三千代、ネットスクール出版
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	毎週授業の前後の予習復習を2時間以上しっかりやってください。また、授業内容の復習、日商簿記3級過去問題での練習と合わせて60時間の授業外学習を行うこと。
オフィスアワー	一覧表を参照してください。
担当教員からのメッセージ	簿記の仕組みや会計用語は馴染のないことなので、毎回の授業に遅刻・欠席のないようにしてください。やむ得ず欠席した場合、必ず授業の内容を教科書で確認し学習すること。毎回の授業前に必ず予習復習してください。
担当教員の連絡先	tang-l@seisen.ac.jp 研究室電話(直通)0749－43－7527

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	産業・組織心理学	授業コード	1054
英文科目名称			
担当教員	李艶		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	金曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修 選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	産業心理学の領域を「仕事」「人事」「組織」「消費者行動」「リスク管理」「産業心理臨床」という6テーマに区分し、それぞれの領域で特に重要な問題を取り上げて説明する。また、ヒューマンエラーの問題と企業の安全意識について概説する。
-------	--

授業のねらい	DP4○ 産業心理学の専門知識・基礎知識を学んで取得する。産業心理学の理論的内容と実践的側面について総括的な理解を得ることがねらいである。
--------	---

授業の到達目標	1. 産業心理学の基礎知識を身につける。 2. 産業心理学の理論的内容と実践的側面について総括的な理解を深める。 3. 産業・組織社会の問題になる関心を持つ。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	オリエンテーション	授業の計画、成績評価、授業の進め方、受験生への要望、教科書と参考書などの説明。 シラバスを読んでおくこと、予習する(3時間)
	2	産業心理学の概説	「産業心理学」とは何かを説明する。 復習と予習(3時間)
	3	産業心理学の歩み	世界における産業心理学の始まり、日本と中国における産業心理学の始まりについて学習する。 復習と予習(3時間)
	4	仕事の心理学 ①	ワーク・モチベーションのとらえ方、ワーク・モチベーションの外発的側面と内発的側面について学習する。 第1回から第3回までの総復習と予習(6時間)
	5	仕事の心理学 ② 人事の心理学	ワーク・モチベーションと科学的管理法について検討する。人事評価制度、人事測定の方法について学習する。 復習と予習(3時間)
	6	職業の心理学	職業選択、キャリア意識、世界各国の職業意識の比較を説明する。多様な雇用形態社会の労働者職業観を検討する。 復習と予習(3時間)
	7	職場集団におけるリーダーシップ ①	最新のリーダーシップ理論について学習する。 第4回から第6回までの総復習と予習(6時間)
	8	最新のリーダーシップ理論について学習する。	管理者のリーダーシップとしての心構え、リーダーシップの養成。 復習と予習(3時間)
	9	産業心理臨床 職場のストレスとサポート	職場のストレスの原因と結果、産業カウンセリングについて学習する。 復習と予習(3時間) 次回の教室外の取り組みの準備
	10	広告の心理学	広告活動と広告効果について学習する。(教室外の取り組み) 第7回から第9回までの総復習と予習(4時間) 教室外の取り組みのまとめ(6時間)
	11	消費者心理学	消費者の購買動機、消費者行動と意思決定過程について学習する。 教室外取り組み。 復習と予習(3時間)
	12	企業の安全意識 ①	ヒューマンエラーの起因、そのスキーマ理論について学習する。 復習と予習(3時間)
	13	企業の安全意識 ②	産業事故の背景と対策について、事例分析により説明する。安全意識をどのように高めるのかについて検討する。 第10回から第12回までの総復習と予習(6時間)
	14	リスク管理心理学	リスク、リスクパーセプション、リスクコミュニケーションを説明し、企業の海外進出のリスク問題について検討する。 復習(2時間)
	15	グローバル企業における産業心理学	学生を主役にして、日中企業を中心にして、心理学視点からグローバル企業が勝つ抜くため、どうしたらよいかを討論する。 復習(2時間)

履修要件	社会心理学を履修したことが望ましい。
------	--------------------

成績評価の方法・基準	定期試験：80% 授業の理解度・到達度を確かめるため、筆記試験を行う。 平常点： 20% 中間課題、授業態度
教科書・テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に指示する。
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	授業をもっと理解するよう事前の予習が必要である。図書館などを利用して、予習すること。 毎回授業の最後に、次の授業の内容を予告し、復習と予習の内容と時間について具体的に指示する。 マナバーを使って中間課題を掲載し、期限まで提出すること。課題提出期限の翌週の授業で講評などでフィードバックする。
オフィスアワー	金曜日の5限、場所は454研究室。
担当教員からのメッセージ	最初のオリエンテーションをしっかりと聞いて、十分理解したうえで、この授業を履修してほしい。授業にはメディア教材などを使うことがある。授業内容をノートに書くこと。
担当教員の連絡先	li-y@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	コーチング論	授業コード	1074
英文科目名称			
担当教員	山越章平 山堀貴彦		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	金曜日 2時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	△ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	コーチング学とは、すべてのスポーツに通底する「練習と指導に関する一般理論」の構築を目指す学問である。この授業では、スポーツ指導者としての能力を高める方法、選手のこころを鍛える方法、スポーツ指導者が持つべき知識、チームをまとめる方法について概説していく。
-------	--

授業のねらい	DP1△：年齢や性別、競技レベル、スポーツ種目によるアスリートの心理的・行動的特徴の違いを理解する。 DP4○：アスリートが楽しく競技を行えるような環境を作るうえで必要な知識および実践スキルを身に付ける。
--------	---

授業の到達目標	・コーチングの基本原則を理解する。 ・選手のスキルレベルやそれぞれのスポーツ種目に応じたコーチング方法について理解する。
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	指導者としての能力を高める方法① 指導者はいかに学ぶのか(山越)	授業の内容、進め方、評価について説明する。コーチング学とはどのような学問なのかについて理解する。 ※授業内容の復習(4時間)
	2	指導者としての能力を高める方法② コーチング哲学を発展させる(山越)	コーチとしての哲学を発展させるのに役立つ方法について学び、ライフラインを書くことを通して自分自身の哲学について考える。 ※授業内容の復習、指導者としての能力を高める方法についての復習課題をmanabaで提出すること(4時間)
	3	選手のこころを鍛える方法① 選手のやる気を高める(山越)	動機づけの定義や種類、動機づけを高める方法について学ぶ。 ※授業内容の復習(4時間)
	4	選手のこころを鍛える方法② 選手に積極的思考を身につけさせる(山越)	エリート選手と非エリート選手の考え方の違いについて説明し、パフォーマンスに良い影響を与える考え方、それらをどのように選手に指導するかについて学習する。 ※授業内容の復習(4時間)
	5	選手のこころを鍛える方法③ 選手の自信を高める(山越)	自信の構成要因や資源について学び、自信を高める方法について理解する。 ※授業内容の復習、選手のこころを鍛える方法についての復習課題をmanabaで提出すること(4時間)
	6	指導者が持つべき知識① 人はいかに運動を学び実行するのか(山越)	運動パフォーマンスの違いはどのような能力によって決められるかを学習する。代表的な運動学習の理論である、閉回路理論とスキーマ理論について説明する。 ※授業内容の復習(4時間)
	7	指導者が持つべき知識② 効果的な練習・指導方法とは？(山越)	フィードバックの種類やその効果的な利用方法について学ぶ。ブロック練習とランダム練習が運動の学習に与える影響について理解する。 ※授業内容の復習、指導者が持つべき知識についての復習課題をmanabaで提出すること(4時間)
	8	チームをまとめる方法① コミュニケーションスキルを養う①(山越)	コミュニケーションの定義、重要性、基礎について学び、グループ・エンカウンターを通して自分自身のコミュニケーションスキルについて理解する。 ※授業内容の復習(4時間)
	9	チームをまとめる方法② コミュニケーションスキルを養う②(山越)	コミュニケーションスキルを高める方法について説明し、傾聴訓練を体験する。 ※授業内容の復習(4時間)
	10	チームをまとめる方法③ リーダーシップスキルを養う(山越)	コーチング・スタイル、リーダーシップ、チーム文化について学ぶ。 ※授業内容の復習(4時間)
	11	チームをまとめる方法④ チームの団結力を養う(山越)	チームの団結力の原理や発達段階、アスリートに与える影響について学び、実際のチームビルディングを体験する。 ※授業内容の復習、チームをまとめる方法についての復習課題をmanabaで提出すること(4時間)
	12	競技力の養成① 技術トレーニング、体力トレーニング(山堀)	技術・戦術の定義、構造、トレーニング方法について学ぶ。 ※授業内容の復習(4時間)
	13	競技力の養成② 戦術トレーニング、心的・知能能力トレーニング(山堀)	体力トレーニングの原理、競技への動機づけと知的理解、コーチングと心理学的諸原則について学ぶ。 ※授業内容の復習(4時間)
	14	コーチングにおけるマネジメント(山堀)	チームのマネジメント、組織・クラブのマネジメント、タレント発掘・育成・トランスファーについて学ぶ。 ※授業内容の復習、競技力の養成についての復習課題をmanabaで提出

			すること（4時間）
	15	まとめ(山越)	第1回から～第14回の内容をまとめる。
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	復習課題、50%、授業内容の復習に関する課題への取り組み ・定期試験、50%、到達目標の達成度を確認するための筆記試験		
教科書・テキスト	授業時に資料を配布する。		
参考書	コーチング学への招待 日本コーチング学会 大修館書店 2017 スポーツ・コーチング学-指導理念からフィジカルトレーニングまで- レイナー・マートン 西村書店 2013		
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	教科書や論文を用いて、授業内容についての復習を求めます。 さらに、授業内容に関する復習課題を課します。復習課題はmanaba上に課題を掲載し、manabaで提出することを求めます。復習課題については授業内で講評等のフィードバックを行います。		
オフィスアワー	山越：前期・後期(水)2限、(金)3限 山堀：前期・後期(金)12:10～13:00 在室時はいつでも可		
担当教員からのメッセージ	コーチングはスポーツだけでなく、ビジネスや教育の中でも応用されています。将来、様々なフィールドで活躍できるよう一緒に頑張っていきましょう！		
担当教員の連絡先	山越：yamako-s@seisen.ac.jp 山堀：yamaho-t@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	経営学概論	授業コード	1086
英文科目名称			
担当教員	方蘇春		
配当年次・実施時期	2学年・前期	単位数	2
曜日・時限	金曜日 3時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	経営学の研究対象は企業で、特に法人企業の会社である。経営学を理解すれば、将来、就職していく企業を見る目が変わり、きっと役に立つと考える。この授業を通じて、経営学に関する基礎知識を学習していく。
-------	--

授業のねらい	DP4○ 「経営は教養である」という言葉のように、基礎的な知的能力と人間力としての教養を持つ必要があることを学ぶ。 DP5△ 就職したときに役に立つ基本的なビジネス知識を身につけてもらう。
--------	---

授業の到達目標	経営学の中の代表的な概念であるモチベーション、リーダーシップ、経営組織、経営戦略を取り上げて、基礎的な考え方を身につけるように学習する。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	経営学はなぜ必要か。	1、企業成長の差を生み出すもの。 2、経営学の想定する人間像。
	2	経営学はなぜ必要か。	3、正しい現実の把握。 4、経営学が役に立つ理由。
	3	企業とは何か。	1、企業とは何か。 2、大企業の誕生。
	4	企業とは何か。	3、日本の会社誕生。 4、人間の理想を実現するための装置としての企業。
	5	職場にやる気を起こすには。	1、イノベーション時代のモチベーション。 2、外発的モチベーション理論。
	6	職場にやる気を起こすには。	3、カネとは何か。 4、楽しく働くために。
	7	優れたリーダーの条件とは。	1、魅力的概念としてのリーダーシップ。 2、優れたリーダーシップの探究。
	8	優れたリーダーの条件とは。	3、なぜ優れたリーダーは少ないのか。 4、サーバント・リーダーシップという視点。
	9	1 + 1 を 2 以上にする組織とは。	1、組織は人なり？。 2、バーナードの組織論。
	10	1 + 1 を 2 以上にする組織とは。	3、組織のデザイン。 4、未来の組織。
	11	良い戦略的経営を実現するには。	1、戦略とは何か。 2、経営戦略策定のための基本的な理論枠組みとツール。
	12	良い戦略的経営を実現するには。	3、古典的戦略と経営戦略。 4、良い経営戦略とは。
	13	これからの経営学。	1、教養としての経営学をいかに活かすか。 2、時代のトレンド。
	14	これからの経営学。	3、日本発の世界的な経営学パラダイム。 4、おわりに一人間を中心に据える経営学へ。
	15	まとめ。	今まで学習してきた内容を復習する。

履修要件	特にない。
------	-------

成績評価の方法・基準	定期試験、70%、授業の到達目標についての達成度を確かめるための筆記試験。 ・平常点、30%、課題学習、講義発表、授業態度。
------------	---

教科書・テキスト	教科書を指定しないが、毎回の授業で要点をまとめたレジュメを配布する。
----------	------------------------------------

参考書	「みんなの経営学」 著者 佐々木圭吾 日本経済新聞出版社、その他（授業中で指示する）
-----	--

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	参考書や配布したレジュメ等を利用して、合わせて授業外学習（予習・復習）60時間以上をすること。
-----------------------------	---

オフィスアワー	(木)3限, 方研究室 (256号室)
---------	---------------------

担当教員からの メッセージ	経営学は単なる金儲けの学問ではない。「経営の神様」と言われているドラッカーは「経営は教養である」と言っている。一緒に「教養」としての「経営」の基本を勉強していこう。
担当教員の連絡先	e-mail : fang-s@seisen.ac.jp、電話 : 0749-43-7531

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	表計算(基礎)	授業コード	1014 1015
英文科目名称			
担当教員	小澤克彦 新担当		
配当年次・実施時期	1学年・前期	単位数	1
曜日・時限	金曜日 3時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ◎ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	代表的表計算ソフト「Excel」の基本操作、データ管理等を学ぶ。SUM関数、切り上げ・切り捨て・四捨五入、表検索(VLOOKUP、HLOOKUP)、条件(IF)関数、絶対参照・相対参照などの使い方を説明する。棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフなど基本的なグラフの作成およびグラフデザイン(凡例、メモリなど)の変更方法を説明する。
-------	---

授業のねらい	DP⑥◎ Excelを利用して関数、グラフなどが自由にあつかえる技術をマスターする。また、どのような処理をしたらいいか、どの関数を使ったらよいかを考え選択できるようになる。情報処理技能検定(表計算)に挑戦する。
--------	---

授業の到達目標	1. コンピュータを利用した情報処理について知識・技能の習得。 2. 文章を読んで、何をしたいかを理解して、関数を選択できる。 3. 情報処理検定協会の情報処理技能検定2級程度の実力をつける。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	エクセルの基礎知識	ワークシート、セル、行、列の構成や書式の機能・データの入力、修正、コピー、移動およびファイル保存
	2	ワークシート入門	加算・減算・乗算・除算・べき乗などの算術演算子 検定問題を用いた文書作成。
	3	基本的な関数① ワークシート活用	合計・平均(SUM・AVERAGE関数・MAX・MIN関数) セルの参照やコピー・移動 検定問題を用いた文書作成。
	4	番地の参照・ふりがな	相対番地・絶対番地の違い 検定問題を用いた文書作成。
	5	基本的な関数②	データの件数(COUNTA・COUNT・COUNTIF関数) 端数の処理(INT・ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数) 検定問題を用いた文書作成。
	6	関数の活用(表検索)	VLOOKUP関数を用いてデータの検索を行う 検定問題を用いた文書作成。
	7	関数の活用(条件の判定)	IF関数を利用してさまざまな条件に基づく処理 検定問題を用いた文書作成。
	8	関数の活用(ネスト)	多段階の判定や論理式を含んだ判定 検定問題を用いた文書作成。
	9	シートの活用	並べ替え、RANK関数 検定問題を用いた文書作成。
	10	書式の設定(ユーザ定義)	表示形式の設定と解除 検定問題を用いた文書作成。
	11	グラフ作成	データの特徴に見合ったグラフ作成(棒・折れ線・円) 検定問題を用いた文書作成。
	12	データベース①	データベースの概要(検索・抽出) 検定問題を用いた文書作成。
	13	データベース②	データの並べ替えと順位付け 検定問題を用いた文書作成。
	14	データベース③	データベース関数(DSUM・DAVERAGE・DMAX・DMIN・DCOUNTA) 検定問題を用いた文書作成。
	15	まとめ	まとめと総復習

履修要件	特になし。
------	-------

成績評価の方法・基準	定期試験、50%、授業の到達目標についての達成度を確かめるための実技試験。 ・平常点、50%、課題学習および、授業毎の成果物等。
------------	---

教科書・テキスト	情報リテラシー Windows10 Edge Word2016 Excel2016 PowerPoint2016 出版社:FOM出版
----------	--

参考書	授業中に指示。
-----	---------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	次回の授業の内容の予習を1時間、授業中の問題を1時間以上かけて復習すること。
-----------------------------	--

オフィスアワー	別紙一覧を参照
---------	---------

担当教員からの メッセージ	会社でもエクセルは必須アイテムとなっています。必ずできるようになってください。
担当教員の連絡先	ozawa-k@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	マーケティング論	授業コード	1089
英文科目名称			
担当教員	脇本忍		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	金曜日 4 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 ■該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	マーケティングとは、企業において顧客を創り維持するための仕組みである。ターゲットとする顧客層を明確化し、顧客層から支持され、新たな市場を探し出す一連の行動ともいえるだろう。実務レベルのマーケティングに関わる内容は、細分化・専門化しているのが現状である。近年における情報化の進展を前提にし、とりわけファッション業界について着目する。
-------	---

授業のねらい	消費者・生活者の特性と、企業におけるマーケティング事例を中心に理解を促進する。戦略的マーケティングについて、その変遷と市場目標の設定基準や競争原理について、事例を中心に解説する。
--------	---

授業の到達目標	マーケティング手法を、購買行動における心理的戦略として提案できること。身近な商品・製品・システムについて、市場における影響力や集客パワーなどが変化する要因を、マーケティング心理学の立場から客観的に分析できることを到達目標とする。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	ガイダンス	授業の進め方について概説する
	2	マーケティング発想の経営	マーケティングの定義と変遷について
	3	マーケティングの基礎概念	市場の発展とマーケティングコンセプトの変化
	4	戦略的マーケティング	経営戦略の枠組みと戦略設定
	5	製品戦略	市場機会の分析とアイディアの創出
	6	価格設定	価格の組み立てと決定とマネジメント
	7	広告とセールスプロモーション	プロモーションミックスとメディアミックス
	8	チャネルマネージメント	チャネル選択とチャネル管理
	9	サプライチェーン	工場、物流、商品センター、小売業者の関係性
	10	営業活動と販売	営業部門と取引先との連携
	11	顧客関係	顧客関係構築のマネジメントとジレンマ
	12	顧客理解	他者認知における個人特性の比較
	13	ブランドマーケティング1.	ブランドの本質と基本戦略
	14	ブランドマーケティング2.	ブランドマネージャーと組織
	15	企業の社会責任	企業常識と社会常識のギャップ

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	指定課題レポート、70%、到達目標の理解度と達成度の確認 ・平常点、30%、小レポート
------------	--

教科書・テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	授業内に適時紹介する
-----	------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	授業内容の復習と合わせて60時間の授業外学習を行う。詳細は授業内で示す。
-----------------------------	--------------------------------------

オフィスアワー	一覧表参照
---------	-------

担当教員からのメッセージ	日常の購買行動や、マスメディアでのマーケティング周辺の事象報道に高い関心を示してほしい
--------------	---

担当教員の連絡先	wakimo-s@seisen.ac.jp
----------	-----------------------

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	精神医学	授業コード	1068
英文科目名称			
担当教員	谷口麻起子 大井健 平木久代 久保田泰考 松河理子 樽谷精一郎		
配当年次・実施時期	4学年・前期	単位数	2
曜日・時限	集中	時間数	
授業形態	講義	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 ■該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	○：DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ：DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ：DP③ コミュニケーション能力 ◎：DP④ 専門的知識・技能の習得 ：DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ：DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	精神科治療学に関する代表的なトピックを取り上げる。 精神科医5名によるリレー形式で、現場の経験に基づく講義を行っていく。 この科目は公認心理師受験のための必修科目である。
-------	---

授業のねらい	臨床心理学と密接に関連ある精神医学の基礎知識と考え方について学ぶ。
--------	-----------------------------------

授業の到達目標	1 精神医学のテーマを知り、基礎知識を身につける。 2 精神疾患を抱えることについて考え、心理・社会的な視点を含めて理解を深める。
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	精神科総論 担当：樽谷	精神疾患やその特徴的な症状について学ぶ。 * 精神疾患についてのまとめをする(4時間)
	2	症状と投薬 担当：樽谷	精神症状と薬物療法について学ぶ * 薬物療法の意味についてまとめる(4時間)
	3	臨床心理学と精神医学 担当：樽谷	臨床心理学と精神医学の特徴及び関係について学ぶ * 臨床心理学と精神医学の相違についてまとめる(4時間)
	4	心身症と依存症 担当：樽谷	心身症、依存症に関する特徴及び治療について学ぶ * 心身症、依存症に関する事例を読む(4時間)
	5	うつ病と躁うつ病1 担当：大井	抑うつ症状を示す疾患について病気の理解をする。 * 抑うつ症状を持つ人の心理状態についてまとめる(4時間)
	6	うつ病と躁うつ病2 担当：大井	抑うつ症状を示す疾患への治療について学ぶ。 * 抑うつ症状への治療についてまとめる(4時間)
	7	統合失調症とその治療1 担当：平木	内因性精神病の理解を深める。 * 内因性精神病についてまとめる(4時間)
	8	統合失調症とその治療2 担当：平木	内因性精神病のケアについて理解を深める。 * 内因性精神病への治療についてまとめる(4時間)
	9	発達障害1 担当：松河	1. 発達障害の診断に関して広汎性発達障害を中心に学ぶ(診断基準、診断の方法、診断の意義)。 * 発達障害とはどのようなものかについてまとめる(4時間)
	10	発達障害2 担当：松河	2. 発達障害の支援に関して事例を通して学ぶ。 * 発達障害への支援についてまとめる(4時間)
	11	児童・思春期精神医学1 感情障害 担当：久保田	主な児童期の精神障害について学ぶ。 * 児童期の精神障害およびその治療についてまとめる(4時間)
	12	児童・思春期精神医学2 不安障害 担当：久保田	児童・思春期の感情障害、うつ病や双極性障害について学ぶ。 * 児童期の感情障害など、およびその治療についてまとめる(4時間)
	13	児童・思春期精神医学3 パーソナリティ障害 担当：久保田	児童・思春期のパーソナリティ障害、特にボーダーラインパーソナリティについて学ぶ。 * 児童期のパーソナリティ障害およびその治療についてまとめる(4時間)
	14	児童・思春期精神医学4 精神病障害 担当：久保田	児童・思春期の精神病障害について学ぶ。 * 児童期の精神病障害およびその治療についてまとめる(4時間)
	15	精神医療と心理カウンセリング 担当：久保田	精神医療と心理カウンセリングの関係について、有効性や課題についても学ぶ。

			* 児童期、思春期の心性について、芸術作品を通して理解し、まとめる（4時間）
履修要件	特になし		
成績評価の方法・基準	レポート、40%、各課題からの出題に対してのレポート提出 ・平常点、60%、受講態度・授業に取り組む姿勢を評価する。		
教科書・テキスト	使用しない。		
参考書	各担当教員が授業中に指示する。		
授業外学習の指示 （準備学習等に必要な時間含む）	各担当教員の指示に従うこと。		
オフィスアワー	一覧表参照 非常勤教員の場合、授業後に質問を受け付ける。		
担当教員からのメッセージ	講師の先生のご都合により、講義の順番は変更の可能性があります。 日程については追って掲示しますので、必ず確認すること。 現場でご活躍のすばらしい精神科医の先生方が、お忙しい中講義にいらっしゃいます。 積極的に質問してください。		
担当教員の連絡先	tanigu-m@seisen.ac.jp		

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	運動障害の予防とリハビリテーション	授業コード	1075
英文科目名称			
担当教員	炭谷将史 新担当		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	2
曜日・時限	集中	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 □該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	: DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) : DP③ コミュニケーション能力 ○ : DP④ 専門的知識・技能の習得 △ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	リハビリテーションは国民の健康状態向上に中心的な役割を果たすものであり、またスポーツ分野においても生涯スポーツ参加がおしすすめられている現在、その重要性はますます高まっている。また人間心理学科の特徴を鑑みた場合、「痛み」の心理学的理解も重要な課題になると考える。そのため、機能回復としてのリハビリテーションを学ぶとともに、心理学的な視野から痛みとそこからの回復に関する学びを深める。
-------	---

授業のねらい	本授業においては運動障害の予防に果たすリハビリテーションの役割について理解を深める。
--------	--

授業の到達目標	運動器の解剖と生理に関する基礎知識について理解を深める 運動障害の理論と実際に関する知識について理解を深める リハビリテーションの具体的方法についての理解を深める リハビリテーションにまつわる心理学的な考察を深める
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	リハビリテーションの役割 (非常勤担当)	授業について説明。初回の講義としてリハビリテーションの社会的位置付けについて学習 ※シラバスを読んでくこと(1時間)
	2	運動器の解剖と生理① (非常勤担当)	筋腱、靱帯、骨軟骨の解剖、生理、バイオメカニクスについて学習 ※前回授業の復習(5時間)
	3	運動器の解剖と生理① (非常勤担当)	神経、血管の解剖、生理について学習 ※前回授業の復習(5時間)
	4	内科的運動障害 (非常勤担当)	環境や栄養による内科的運動障害について学習 ※前回授業の復習(5時間)
	5	整形外科的運動障害① (非常勤担当)	骨折や脱臼などの急性外傷について学習 ※前回授業の復習(5時間)
	6	整形外科的運動障害② (非常勤担当)	腰痛、野球肩、テニス肘、疲労骨折などオーバーユースによる慢性障害について学習 ※前回授業の復習(5時間)
	7	運動療法の原理と適応 (非常勤担当)	運動制御機構に基づく筋力強化、可動域拡大、神経筋協調訓練などについて学習 ※前回授業の復習(5時間)
	8	物理療法の原理と適応 (非常勤担当)	古典的物理療法に加えて電氣的刺激法、高圧酸素療法など最新の物理療法について学習 ※前回授業の復習(5時間)
	9	運動制御メカニズム (炭谷担当)	運動制御の原理および変化を及ぼす要因について知り、制御メカニズムの破綻についても学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)
	10	運動障害の予防と心理的配慮 (炭谷担当)	運動障害に陥りやすい行動パターンや心理的特徴について学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)
	11	リハビリテーションの心理的配慮 (炭谷担当)	リハビリテーションに取り組む者に特徴的な心理的要因について学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)
	12	オーバートレーニング (炭谷担当)	オーバートレーニングの観点から運動障害の予防について学習 ※前回授業の復習および前回鑑賞した動画の感想をまとめる(4時間)
	13	身体的痛みの心理的意味 (炭谷担当)	痛みを訴えるアスリートの事例をもとに、痛みが意味について臨床心理学的な観点から学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)
	14	小児のリハビリテーション (炭谷担当)	小児の身体的特徴に合わせたリハビリを学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)
	15	高齢者のリハビリテーション (炭谷担当)	高齢者の問題点を考慮したリハビリを学習 ※配布資料を読んでくこと及び前回授業の復習(4時間)

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験75%：到達目標の達成度を確かめるための筆記試験 平常点25%：課題の提出状況やコメントシートでの考察
------------	--

教科書・テキスト	使用しない
----------	-------

参考書	授業中に配布
授業外学習の指示 (準備学習等に必要 な時間含む)	医療分野の内容への言及が少なくない。適宜難解な専門用語が用いられることがあるので、テキストや資料を用いた事前学習が重要である。
オフィスアワー	一覧表を参照。原則として研究室在室時は随時対応可。
担当教員からの メッセージ	講義の復習により、理解を深め、わからないところは質問、相談する。
担当教員の連絡先	sumiya-m@seisen.ac.jp

対象学生：	人間学部人間心理学科	開講年度	2020
講義科目名称	心理療法	授業コード	1094
英文科目名称			
担当教員	高橋啓子 呉竹仁史 松村啓子 新担当		
配当年次・実施時期	4学年・前期	単位数	2
曜日・時限	木曜日 1 時限	時間数	
授業形態	講義	科目分類	選択

科目コード /実務経験のある 科目	科目コード 実務経験のある教員等による授業科目 ■該当
-------------------------	---------------------------------------

ディプロマ・ポリシー	○：DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) ：DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ：DP③ コミュニケーション能力 ◎：DP④ 専門的知識・技能の習得 ：DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ：DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	心理療法の、なんらかの病理について、心理的治療的な意味での処遇を行うこととされている。しかし、今日、人の成長や発達を援助することの領海は、臨床的に双方向にあると思われる。社会のさまざまなフィールドで実際活用されている①ブリーフセラピー②音楽療法③行動療法④箱庭療法について、その基本的な理論と技法・社会での活用事例について学習する。
-------	--

授業のねらい	心理療法の実践についてその理論と活用を理解する。
--------	--------------------------

授業の到達目標	1.それぞれの心理療法の基本的なものの見方を理解する。 2.それぞれの心理療法の技法の使い方を実習する。 3.どのような援助場面で有効かを事例をとおして学ぶ。 4.心理療法の限界についても禁断することが出来る
---------	---

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	心理療法とは ① 担当：岡田	さまざまな心理療法がある。主要な心理療法について、理論と流れ、実際の活用について理解する。＊予習・復習4時間
	2	心理療法とは ② 担当：岡田	実際の心理療法を映像で学習し、理解をする。＊予習・復習4時間
	3	心理療法の実践 担当：岡田	実際に模擬的な場面構成をして、心理療法の役割を学ぶ。 ＊予習・復習4時間
	4	心身医学会における音楽の活用 担当：呉竹	映像をとおして、国内外の医師が診療内科などで、実際に治療している実態を把握する。＊予習・復習4時間
	5	ストレスを除去する受動的音楽療法 担当：呉竹	心を癒す方法の一つとして、欧米で重要視されている、鑑賞療法を体験し生体の変化を測定する。＊予習・復習4時間
	6	明日への活力をつける能動的音楽療法 担当：呉竹	心を高揚させる能動的なセッションを体験するとともに、その実践方法を知る。＊予習・復習4時間
	7	スポーツ選手などへのメンタルトレーニングに使う音楽療法 担当：呉竹	映像をとおして、スポーツ選手や将棋の棋士などが、試合前に行っている音楽の効果的な利用方法を知る。＊予習・復習4時間
	8	行動療法とその対象 担当：松村	どのようなクライアントが行動療法に適するかを学ぶ。 ＊予習・復習4時間
	9	オペラント技法、セルフコントロール法 担当：松村	各技法の基礎の理解する。＊予習・復習4時間
	10	逆制止法、系統的脱感作 担当：松村	各技法の基礎を理解する。＊予習・復習4時間
	11	まとめ 担当：松村	事例について技法の選択、並びにプログラム作成。 ＊予習・復習4時間
	12	箱庭療法について 担当：高橋	箱庭療法実習。＊予習・復習4時間
	13	箱庭療法と物語療法 担当：高橋	箱庭療法実習。＊予習・復習4時間
	14	実際の箱庭についての解釈 担当：高橋	相互に聞きとった物語と箱庭について、解釈を試みる。 ＊予習・復習4時間
	15	実際の箱庭をもとに解釈を共有する 担当：高橋	全体学習。＊予習・復習4時間

履修要件	特になし
------	------

成績評価の方法・基準	定期試験、70%、担当者ごとに出される課題を総合して評価する。高橋担当部分については箱庭実技と研究成果発表の総合点。 ・平常点、30%、発表や授業中のロールプレイ実技を評価する
------------	---

教科書・テキスト	プリント
----------	------

参考書	授業中各担当から紹介。
-----	-------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む)	それぞれの心理療法に関する指定の参考書(授業中指示)については事前に図書館で調べておくこと
-----------------------------	---

オフィスアワー	前期・後期(木)1時限(メールで確認してください)
---------	---------------------------

担当教員からの メッセージ	それぞれの担当から専門的なエッセンスを得て、心理療法の理解につなげるために、あげられる参考図書を読んでのぞむこと。本講義は、担当教員の有する実務経験（臨床心理士、心理療法士）を生かした授業を展開する。
担当教員の連絡先	takaha-k@seisen.ac.jp